

5年 総合（人間領域）学習指導案

第2日1、2限 ランチルーム

授業者 松下 浩一 釣本 直行

長谷部 学

1 単元名 お年寄りとともに ～これからの「高齢社会」を考える～

2 目 標 ・「高齢社会」の実態や問題を調べたり、そこに関わる人々の思いにふれながら、「高齢社会」にどう関わっていくか、自分なりの考えを持ち、身近なお年寄りと進んで交流しようとする。

3 指導にあたって 学習材について

本単元は、人間領域の視点の一つである「交流」を具体化するために設定した。人はそれぞれの年代や自分の置かれた環境によって異なる考えや同じ考えを持っているものである。本単元では交流の意義を、世代の異なる者同士がふれ合い、互いに考え合ったり認め合ったりすることと捉えている。

欧米では老後をハッピーリタイアという「幸せ」の語感が伝わる言葉によって表現されているが、日本ではまだ老後というマイナスイメージが残り、ノーマライゼーション(平常化)やQOL(生活の質)の向上を目指している。「高速高齢化社会」を迎え、今まで家族(個人)の問題と思われてきた高齢者の問題を社会全体の問題として考えるようになってきた。あまりにも速い日本人の高齢化スピード。子供達が社会に出て家庭を持つ20年後は、現在約7人に1人の65歳以上の高齢者が4人に1人の割合になると言われている。しかし、一方では核家族化が進み、お年寄りと同居する5年生は限られている。また地域社会においてもお年寄りとうれ合う機会が少なく、心のつながりも希薄になりがちである。

そこで「高齢社会」に関わる様々な「ひと・こと・もの」との出会いを通して、皆一様ではないお年寄りの内面や環境を正面から見つめ、自分なりの「高齢社会」に対する考えを持たせたい。そうすることで、自分なりの「高齢社会」に対する関わり方を考えるきっかけになるであろう。また、共生にねざした社会を考えることにもつながっていくと考えている。

また、お年寄りを取りまく環境を見つめていくことで、高齢社会に関わる様々な人や制度、考え方があるということに気づくであろう。公的サービス

が行きわたり人間関係に変化があったとしても、公的サービスや専門的医療・ケアでは満たされない親密な交流の源泉は家族や地域との人間的なふれ合いにあると言える。家族がもつ意味を問い直し、これからの将来に渡ってこの問題に積極的に関わっていく姿を期待している。

学びを広げ深めるために

① お年寄りの思いや介護のあり方を自分なりに見つける体験的活動をゆとりをもって行う

本単元では、お年寄りとの交流や施設の取材などを通して、お年寄りの思いや願いならびにこれからの介護のあり方を自分なりに考えていくことをめざしている。そこで、まず老人福祉センター「万寿苑」でお年寄りとうれやいふれ合いながら、老人の思いにふれていく。また、時間的なゆとりを持ちながら、自分たちの地域にある施設を取材し、そこで働く職員の方々やお年寄りとの交流を通して、これからの高齢社会で大切にしたい

単元計画(総時数 14時間+課外)

主 な 活 動 と 内 容	学びを広げ深めるために
1 高齢社会の特徴をつかみお年寄りに対する思いを持つ ・グラフから現代が高齢社会であることを知る ・ビデオを見てお年寄りに対する感想や疑問を出し合う 自分が高齢社会にどうかかわっていけばよいのか	②③
2 老人福祉センターを見学しお年寄りとうれあう ＜お年寄りはどんな思いでいるのだろう＞ ・お年寄りとの交流や取材を通して考えを持つ 趣味を楽しんでいる 仲間と一緒にいるのが楽しい でも家庭のふれあひも求めているようだ	①③
3 高齢社会の問題を自分ごととしてとらえ専門家の話を聞く中で これからの介護のあり方を考える ・痴呆症や寝たきり老人のビデオを視聴する ＜自分の親が痴呆症や寝たきりになったら自分はどうか＞ 家族で介護する 在宅ケアを受ける 老人ホームに預ける ・それぞれの考えを出し合い老人介護のあり方について調べる ・行政や民間施設、ボランティアの立場の方々から自分の疑問やわからないことを聞いたりこれからどんなことを考えていかなければならないか伺う	②③
4 個別に近くの施設を訪れ、自分の考えを深める ＜これからの高齢社会でどんなことが大切になるのか＞ ホームヘルパー 特別養護老人ホーム デイサービスセンター ・調べたことを交流し合う ・ ・ ・ etc.	①②③
5 これまでの活動を振り返り 今後の「高齢社会」についての自分なりの考えをまとめる	②
6 身近なお年寄りとうれやいふれあう	②

いことを自分なりにつかませていきたい。 → お年寄りの思いに共感しながら追求していく姿

② お年寄りのよさや高齢社会における自分のかかわり方を見つけるために自分に合った内容や方法を選択できるように学びの個性化を推進する

お年寄りの思いにふれていく段階では、どんなことをしてふれあい、どのような思いを聞き出すのか、一人一人の思いを大切に交流させていきたい。また、これからの高齢社会での介護のあり方を考えるために、施設を取材し、考えをまとめる際にも、各自で施設を選択し、話を伺う人や取材する内容を自分なりのこだわりを生かした形で追求させていきたい。考えを交流したりまとめたりするときには、お年寄りの立場・介護する立場・家族の立場などからの視点を盛り込みながら、自分なりの表現方法で取り組ませていきたい。 → 自分なりの方法で追求したり表現したりする姿

③ 高齢者を対象にした施設や制度などを調べるための学習環境を整える

介護に必要な高齢者を最前線でみている行政・民間施設・ボランティアという3つの立場の方をゲストティーチャーとして招き、高齢社会を迎える問題点や家族のあり方、介護のあり方などを語ってもらい、そこに携わる人々の思いや願いを感じ取らせたい。また、各施設を取材する際に、事前に連絡したり、取材のマナーなどを指導しておくことにする。さらには、高齢社会に関わる事象を扱ったビデオや関係資料、記事などをオープンスペースに常時置いておき、いつでも調べたいときに調べられるような環境を整備しておきたい。 → 他の考えを生かしいろいろな立場から考えようとする姿

4 本時の学習 (10/14時)

ねらい 介護を必要とするお年寄りにかかわっている行政の職員や民間施設の方、ボランティアとしてかかわっている方との対話を通して、自分の考えを見直すことができる。

本時の展開

主な活動と内容	教師の働きかけ
1 自分が「在宅介護」やその制度、特別養護施設などについて調べたことや考えたこと まだ疑問に思っていることなどを発表する	自分が調べてみてこんなことが分かったということだけでなく、そのことからの思いや疑問を発表になかに入れていくように助言する また必要に応じて機器等の準備をする
 <p>在宅介護制度のことについて調べてみたのだけれど もう少し分からないところがあるな</p> <p>どんな気持ちでお年寄りと接していらつしゃるのかな</p> 	
2 自分の疑問やゲストティーチャーの方からのお話をもとに話し合う	最初は全体の場で話を伺うがその後各自の問題に従って分散会の形で対話する
 <p>自分が考えている問題だったら ○○さんに聞くのがいいな</p> <p>喜んでくださるお年寄りや家族の人の顔を見るとうれしくなります</p> <p>この制度のことについてもっと皆さんに知って欲しいと思います みんなで考えていかななくてはならない問題なんです</p> <p>民間施設の方</p> <p>ボランティアの方</p> <p>市役所の職員の方</p> <p>お年寄りの方は 皆さんみたいな方が来ると すごく喜ばれますよ</p> 	
3 この時間を終えて 今までもっていた考えがこんなふうに変わったよということを中心に感想を話し合う	自分の問題に対する理解が深まったということより自分だったらどうしていきたいか さらにこんなことについても考えてみたいという思いを出させていく